

語り継ごう、明日へ。

歴史はいつも未来へのみちしるべです
世の中の進むスピードと自分の生きていくペースが
少し合わなくなってきたなと感じ始めたら
いつか来た道まで戻ってみましょう

ひと街じと

No. 15

二〇〇六年 春(年四回発行)

発行：(社)印刷紙工

札幌市中央区南十五条西十八丁目
TEL(011)561-1597

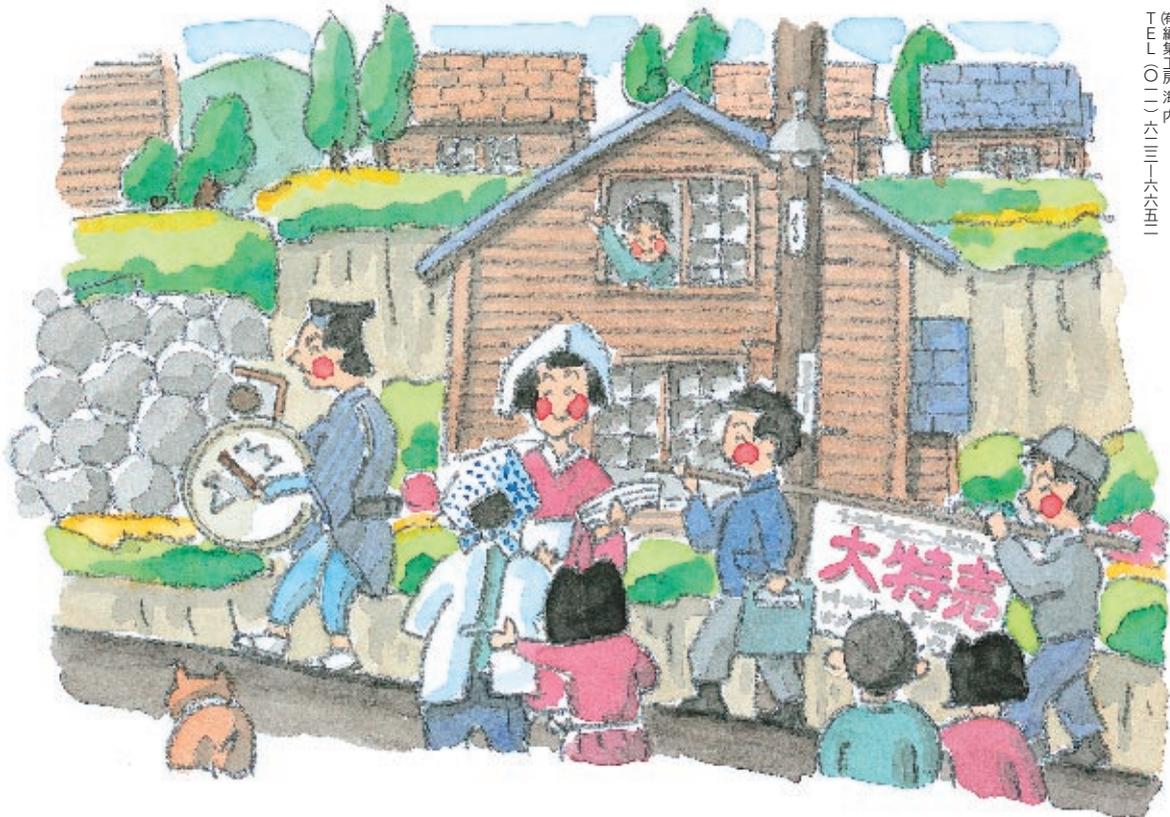
編集：ひと街じと刊行会

札幌市中央区北一条西十七丁目

北海道不動産会四階

(有)編集工房海内

TEL(011)631-6651



くすんだマチに
原色のサ化がくねくねと

原っぱで遊んでいると、どこからともなく聞こえてくるジンタ。「それっ」と音の方へ駆け出していく子どもたち。いまよりはるかに暮らしが貧しかった時代に、チンドン屋は夢の国からやってきたスター一座でした。なにしろ抱える楽器は大鼓や三味線、鉦かね、ラッパにクラリネット。いでたちといえば股旅、編み笠、ピエロ、燕尾服——この和洋の賑やかさが、商店街の大売出しや開店セールを宣伝するのに効果的だったのでしょう。目抜き通りだけでなく、くすんだ家々の間を、くねくねと原色の花が通り過ぎていったものです。

ITの限りなく進む現代に、数は少ないながらもチンドン屋は健在です。レトロを売る大道芸として全国コンクールも開催されています。しかし、かつて子どもたちが夢中で後をついていったあの素朴な楽隊とは、いささか魅力が異なるかもしれません。



札幌市中央区 大通公園の歌碑
しんとして幅廣き街の 秋の夜の 玉蜀黍の
焼くるにほいよ



啄木、百年前の足跡

時代はケータイ短歌
札幌の下宿先もビルの中

かつては文学少女の感涙を誘い
夢多き青年を北の果てに向かわせた
さすらいの歌人、石川啄木
ケータイに明け暮れる現代の若者には
どう読み継がれているのでしょうか



年のモーツァルトに代表されるように、生誕何年といつて

話題になる芸術家はたくさんいます。しかし二十六歳という短い一生にも拘らず、また短いがゆえに、時代を越えたファンが、熱っぽく談論の対象とする歌人というも稀でしょう。

改めて今年、明治十九年（二八八〇二月、岩手県に生まれた石川啄木の生誕百二十年にあたります。

啄木が北海道を訪れたのは生涯に三度。最初は明治三十七年、十八歳のとき函館と小樽へ。次は二年後に函館へ。そして三度目が四十年から四十一年にかけて函館、札幌、小樽、釧路と転々としたときです。
この三度目の漂泊が、啄木ファンに北海道ロマンをかき立ててやまないところ。札幌に似合へるものは、



上 啄木が「大いなる田舎町なり」と記した明治40年頃の札幌市役所
下 啄木が下宿した「北七西四田中方」は、その北七条郵便局に（昭和52年撮影）
※いずれも札幌市写真ライブラリー提供



幾層の高楼にあらずして幅広き平屋造りの大建物なり、自転車にあらずして人力車なり「秋風記」と記した札幌が、人口六万六千人の頃です（当時は札幌区。百年の時の流れを感じずにはられません。

明治四十年九月十四日から二週間の滞在でしかなかった札幌での下宿先「北七西四ノ四 田中方」は、現在の札幌クレストビルのある場所です。ここで生まれた歌の一つが「しんとして幅廣き街の秋の夜の玉蜀黍の焼くるにほいよ」。一带はJR札幌駅北口近くで、下宿跡と判明したのは昭和五十年のこと。ビルになる前の、北七条郵便局のときでした。

そして同ビルを含めた幾層の高楼の中で目立つパソコンなどの量



小樽市・水天宮境内の歌碑
かなしきは小樽の町よ 歌ふことなき
人人の 声の荒さよ



北七条郵便局は現在札幌クレストビルに1階に啄木の胸像と案内パネルが

販店。若者の行き来が絶えません。そこで思い出したのが、NHKラジオにはレギュラー番組もあるほどのケータイ短歌の人気。啄木よりも若い十代、二十代の若者が、気軽に歌をメールで投稿？する時代です。貧窮にあえぎながら、あくなき創作によってその出口を探し続けた啄木との距離はどれほどでしょうか。

たとえば啄木の「ころよく我にはたらく仕事あれ それを仕遂げて死なむと思ふ」を、ある人にケータイ流にしてももらいました。携帯電話の小さな画面にゴシック体で表示されたのは「つぶやいたヤツテランネエヨですぐにクビ 明日はどーする自由もつらい」——さて、歌とは似て非なるものか、型にはめる単なる言葉遊びか。

短歌に限らず、俳句や小説まで携帯電話やパソコンで発表する時代ですが、啄木の歌がそれになじむかどうかは言わずもがな、でしょう。

前述のビル一階には、啄木の胸像と案内パネルがありますので、興味のある方は立ち寄ってみてください。ひよつとしたら、啄木のため息が聞こえるかもしれませんよ。

※参考文献／「北区エピソード史」（札幌市北区役所）

「ペーパーレスの時代といわれますが、そういう時代だからこそ、一枚一枚の紙に個性が求められるのではないのでしょうか——こう言うのはペーパーショップサクマの福原久美子さん。静かな店内に一步足を踏み入れただけで、約五千種の紙に目を奪われます。

同店は、戦前に出発した歴史を持つ紙卸商サクマが平成二年（一九九〇）、自社倉庫の一角に一般消費者向けの小売部門として開設したのが始まり。以来、需要に応じて拡張・改装を行い、現在の店舗に至っています。ここでは八年のベテランという福原さんの目にも客層の変化

懐かしいもの、面白いもの、珍しいものを探して歩くシリーズ本を読まなくなった最近、紙に触ってまずか新聞以外では、ひよっとしてコピー用紙ばかり？ 使い方一つで夢を託せる「紙ワールド」を見つけた

風合い、手触り——。ペーパーレスの時代に夢を託す。

は顕著で、「以前はデザイン関係の人が多かったのですが、最近はインクジェットプリンターを使って自社のチラシなどに適した紙を求めるお客さんが増えています」と言います。

もちろんそうしたOA機器に対応した新しい紙も、使い方一つで機能を発揮



紙ってこんなにたくさん色があったのと思うくらいの数。手触り、厚さも様々

色、模様、機能で探す5千種



地にイラストが印った紙
コピーやレーザープリンターに使える

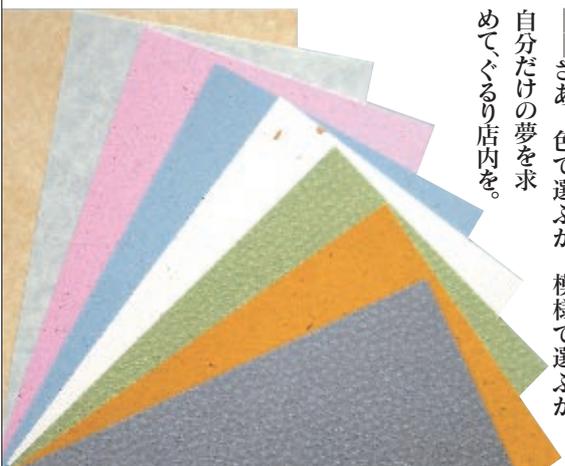
することでしよう。しかしここへ来たら紙の持つ風合いや個性に自分の夢を託した使い方、作品を実現してほしいところ

それは例えば、結婚披露宴の案内カードやプロフィール紹介、あるいは席札など。また、サークルの文集の表紙や本文の紙。ミニアルバムや自分史のオリジナルカバー。家族や友人のお祝い事のプレゼントに添える詞書。印刷でも手づくりでも喜ばれること請け合いです。

といつても様々な模様、色とりどりの紙を前にしたら、考えてきたことが真っ白になるくらい、どの紙をどのように使ったらよいかわからなくなるでしょう。そこで迷うことなく女性スタッフに相談することです。「漠然とでもこんな紙がほしいと言っていたら、すぐに探して差し上げます」（福原さん）。また、切れ端でもいいから見本を持参すれば、「同じ紙を探し出すのも仕事冥利です」（同）とも。希望サイズに一枚から断裁

してくれま

種類は増えても人気の定番は変わらず、それは色数の多いレザック、マーマイドなど。そして最新の紙は、裏からこすると絵柄が凸凹飛び出してくるもの——さあ、色で選ぶか、模様で選ぶか。自分だけの夢を求めて、ぐるり店内を。



「ペーパーワールド」で迷ったら
すぐにスタッフに相談を——

お好みのサイズに切ってくれる
大きな断裁機



地域密着のトップランナー

都心や郊外で量販店が販売戦を繰り広げる一方で、地域の小規模店はいま、どんな道を歩いているのか——マチの電器屋さんが気になって話を聞いてみると、おそらくどんな業種より地域に密着して最も頼りになる「便利屋」としての存在感、あり！

町の電器屋さん走る！ 電球一個から リフォームまで。



電話一本ですべてOK！

地 元の駅前や商店街には必ずあった電器店。新製品が出たといつては店頭飾られ、道行く人の羨望の眼差しを誘ったものでした。それが近年、店の数もめっきり減って、華やかさも以前ほどではなくなりました。

経産省の商業統計調査によりますと、昭和五十一年に全国で六万一千店あった電器店が、平成十四年には四万五千店に減っています。北海道電機商業組合でも組合員数のピークは昭和五十三年頃の約千五百人で、現在は九百五十人を下回るまでに。転廃業の大きな原因は、大量生産で価格が下がると共に利幅も薄くなり、量販店攻勢もあって、販売だけ

では経営が成り立たなくなってきたというところのようです。同組合の本田義則常務によりますと「以前は売れば売れば口コミでお客さんが増えたのですが、いまは、それは高い、あそこはもつと安いとなって、お客が減る」状態と苦笑交じりに。ですから量販店ではできない様々なサービスを提供して、生き残りに懸命。その範囲のいかに広いかは、職業別電話帳で一目瞭然です。そこには電球や蛍光灯の取り替えに始まって、石油ストーブやボイラーの分解掃除、ロードヒーティング工事、シャワートイレの設置、給湯など水周りのリフォーム、太陽光発電と、お客様の引き受けます」が載っています。効率と規模では大型店にはとてまかないませんし、行列の出来る繁盛

店にもなれないでしょう。しかし「電話一本で配達・取り付けまでしてくれて、小さな仕事でもすぐに駆けつけてくれる。こんな業種が他にありませんか（二本田常務）。お客さんの中には、自分が仕事を頼んでいる店がどこにあるのか知らない人さえいるというのですから、固定客と長年培ってきた信頼関係がいかに大切かということの証しです。地域の電器店の存在意義は、量販店とは根本的に異なる——といってもよいかも知れません。

必ず家の中に入れる

長 年の信頼関係といえは、札幌市内でも数少ない二代目の経



今年で創業60年という札幌でも数少ない2代目の経営 花岡電器（中央区北1西23）



営に移っている店の一つが、今年創業六十周年、中央区の「花岡電器」（北二西二三）です。「大型店は黒船、ウチは昔ながらの漁船でやっているようなもの」という花岡伸郎社長（五）は団塊の世代でもあり、戦後の家電の流れを見してきました。商圏は拡大しましたが、かつてのご飯時や夜九時、十時の訪問がカタログ販売に。さらには年配の人には使い方が難しくなり、量販店で何十種類もある中から選ぶのはとても無理という状況にもなっています。そこで「テレビでも三台くらい持っていて比較してもらったり」（花岡社長。ついでにお茶を飲みながら世間話。室内のあちこちに目が行きます。水周りのリフォームは、IH調理器に替えたら、運動不足から健康機器は、という成り行きに。ここで気が付くのが、こうして必ず家の中に入れてもらえるという電器店の仕事。南区で川沿、東海地区を中心に今年で創業三十年という「デンキのスズキ」（南区南沢四一三、東海店）の鈴木将夫社長（六）の言葉借りるなら、それは「ユーザーが一番近いところにいる」仕事、ということになるでしょう。同店は鈴木社長が脱サラして奥さんと二人三脚で始めた店。三十年の信用で「最もプライベートな寝室にまで入れるし、留守のときの納品では家の鍵まで預けてくれる」ほどに。その名刺にある資格を見てびっく



デンキのスズキ（南区南沢4-3）の大きな店舗は3階建て住宅の1階地下ホールを地域に開放して30年のご愛顧に恩返し



り。第一種電気工事士、電話工事担任者アナログ2種、同デジタル3種、石油機器技術管理士、家電製品総合アドバイザー、家電製品エンジニア——いずれも経産省認定です。「量販店との価格競争は永遠のテーマ」鈴木社長ですが、その価格差は、こうした様々なサービスを含んだいわば「ハートプライス」（同）。花岡社長も、「ネットで量販店の価格を知っている人には安い値段で売って、知識のない人には高くでしは申し訳ない。その分は、納得のいくまで使い方を説明して、何回でも相談に答えなければ」といいます。

人間関係はアナログ

も ちろん販売面以外でもサービスに怠りありません。

電気製品年表



家庭電化の始まり

- 1946 昭21 ●「電熱器」が人気呼ぶ
- 木箱の内側に鉄板を張った「電極式パン焼き器」登場
- 1947 昭22 ●「ハウスライト」、通称「停電灯」がよく売れる（三洋製品、電池はナショナル）
- 1949 昭24 ●「4球ポータブルラジオ」（白砂電機）
- 1951 昭26 ●白黒テレビ、早川電気（シャープ）1号機
- 1952 昭27 ●ラジオ全盛期（君の名は）
- 17インチ白黒テレビ（松下電器）
- 1953 昭28 ●テレビ本放送開始（2月NHK、8月日本テレビ）
- 電気冷蔵庫、松下電器1号機
- 噴流式電気洗濯機、三洋電機1号機
- 1954 昭29 ●品質安定、画期的乾電池「ハイパー乾電池」（松下電器）（昭和20年代後半からの家庭電化—扇風機、トースター、アイロン、ラジオ）
- トランジスタラジオTR・55（東京通信工業・現ソニー）
- 日本初の自動電気炊飯器（東芝）（昭和32、3年頃から家電ブーム—電気洗濯機、白黒テレビ、電気冷蔵庫が三種の神器）
- 湯沸型ポット（東芝）
- 1957 昭32 ●ホームクーラー、松下電器1号機
- 1958 昭33 ●テレビ用のリモコンスイッチ（東芝）
- 1959 昭34 ●赤外線健康コタツ（電気コタツ、松下寿電子工業）
- 自動血洗い機（普及せず）
- カラーテレビ、松下電器1号機
- 1961 昭36 ●セパレート方式のステレオ「ステレオコンポーネントST-800型」（トリオ、現ケンウッド）
- 1965 昭40 ●カセットテープレコーダー「カートリッジテープレコーダーTP-707P」（アイワ）（新三種の神器3C—カラーTV、カー、クーラー）
- 1967 昭42 ●初の国産シャワートイレ「サニタリナ61」（伊奈製陶、現イナックス）
- 1968 昭43 ●ラジオ付きカセットレコーダー（アイワ）
- 1970 昭45 ●電子ジャー（象印マホービン）
- ステレオ（パイオニア）
- エアコン（三菱電機）
- 家庭用自動もちつき器「もちっ子」
- 1972 昭47 ●18型トリニトロンカラーテレビ（ソニー）
- 1974 昭49 ●冷凍室、冷蔵室、野菜専用室のついた3ドア冷蔵庫
- 1975 昭50 ●テレビゲーム機「テレビテニス」（ブロックくずし）（エポック社）
- 1976 昭51 ●ビデオデッキ「ビデオカセットHR3300」（日本ビクター）
- 「ふとん乾燥機」（三菱電機）
- 1977 昭52 ●日本初のビデオディスクプレーヤー（ゼネラル）
- 1978 昭53

大衆化

高機能化

電子化・省エネ化

- 1978 昭53 ●家庭用エアコンがリモコンに（三洋電機）
- カセットテープ型ヘッドホンステレオ「ウォークマンTPS-L2」（ソニー）
- 1980 昭55 ●ダビングできるテープレコーダー「ザ・サーチャー W・GF-808」（シャープ）
- 個人レベルのユーザーを想定した「パーソナルコンピュータ・PC-8001」（NEC）発売
- 1981 昭56 ●「コンパクト・ディスク・デジタルオーディオ（CD）」システムのプレーヤーとコンパクトディスク発売（ソニー）
- 1983 昭58 ●カセット式カラーテレビゲーム「ファミコンコンピュータ」（任天堂）
- ホームランドリー（松下電器）
- 1984 昭59 ●超小型テレビ、ポケットカラーテレビゲーム「テレビアン」（セイコーエプソン）
- 1985 昭60 ●軽量小型化した家庭用ビデオ、8ミリビデオ「CCD-V8」（ソニー）
- ファミコン「スーパーマリオブラザーズ」（任天堂）
- 1986 昭61 ●家庭用オートベーカリー「らくらくパンだ」（船井電機）
- レーザーディスクとコンパクトディスクのハードが一台に。コンパチブルプレーヤー「CLD-7」（パイオニア）
- 1987 昭62 ●ホームベーカリー（松下電器）
- コードレス電話（同）
- 1988 昭63 ●コードレススチームアイロン「セ・パ・レ」（松下電器）
- 1989 平成元 ●自分で楽しむビデオ「ハンディカム55」（ソニー）
- 1990 平2 ●ファジーで全自動洗濯機「愛妻号Dayファジィ」（松下電器）
- ※松下電器産業、カラーテレビ第1号生産30周年
- 1991 平3 ●フラットのブラウン管、大画面の「画王」（松下電器）
- 家庭用ファクシミリ「UX-1」（シャープ）
- 1992 平4 ●名刺サイズのAMステレオ対応ラジオ「CR-D60」（アイワ）
- 世界初の液晶画面付きビデオカメラ「液晶ビューカムVL-HL1」（シャープ）
- 1993 平5 ●カビ、汚れに強いステンレス槽式洗濯機（日立製作所）
- 1994 平6 ●大画面テレビの決定版「ワイド画王・ヨコヅナ」（松下電器）
- テレビゲームに新時代「プレイステーション」（ソニー・コンピュータエンタテインメント）
- 1995 平7 ●家庭用通信カラオケ「X-55」（タイトー）
- 1998 平10 ●運転状態や故障を言葉で知らせる冷蔵庫（松下冷機）

情報化・IT社会

デンキのスズキでは、店舗階ホールを一五〇坪ホームシアターの無料体験に開放しているほか、四十人くらいまでの宴会など地域の集まりに使ってもらっています。また花岡電器では二十年続いているというお得意さんを招待してのマーシャン大会が好評ですし、社長自身も町内会やPTAの役員で恩返し。

そして北区でたずねた「ミサワ洋電」（麻生町五）。数坪ほどの店舗部分に置いてあるのは電球や蛍光灯といった日用小物だけです。永倉吉裕

社長（六）に話を聞くと、昭和四十五年の創業ですが、麻生地区にダイエーなどの大型店が出店して以来、店には製品を置かず、お客さんの注文をもらってから仕入れているとのこと。もちろん修理などにはいつでも出向きます。

ふとパソコン教室もある隣のスペースをのぞくと、そこには和紙の人形の展示が。実は永倉社長、麻生の地名の由来でもある垂麻を広めるサークルの事務局を引き受けており、和紙にはその垂麻をすき込ん



麻生一帯の地域活動の拠点
ミサワ洋電（北区麻生町5）
垂麻をすきこんだ和紙人形の
常設展示も

であるのです。さらには創刊二十五
年になる麻生商店街のコミュニティ
ペーパーの編集責任者であり、YO

SAKOEソーらん祭り麻生会場の
運営責任者でも。
仕事との直接の関係はないとはい
え、どの業種より地域密着を標榜す
る電器店に、いかにもふさわしいポ
ジションではないでしょうか。

聞くとところによると最近、量販店
が地元の電器店をフランチャイズ化
して、アフター部門をフォローしよ
うという動きがあるとか。もはや売
りつ放しでは済まないことが、鮮明
になってきたようです。「時代はデ
ジタルでも、人間関係はアナログ」
（本田常務）。「電器店にはいざれ大
飛躍のときがくる」という鈴木社長
の言葉も現実味を帯びてきます。
さて、わがまを聞いてくれる電
器店、あなたはどこかと長い付き合
いがありますか。

（参考資料／「日録20世紀」（講談社）、「日本家電のデザイン」（サンヨー）他）

来た道、 行く道。

様々な先達がいるからこそ
二十一世紀があるんだよ——
スローコミュニケーションを求めて。

本欄へ自薦、他薦を
お待ちしております。

初 代は、着物がある限り草履は廃れな
いと始めたのに、今では路面店は道
内に二三軒になってしまいました——

こう言う瀬塚豊さん(五)はそのうちの
一軒「はきものの店 まつや」の三代目。創
業大正七年(一九一八)という老舗です。幼
い頃から、卸商として道内を売り歩く父親
と、店舗を守る母親を手伝ってきたので、
大学を卒業してすぐに後を継ぐのもごく
自然でした。

小樽には札幌より華やかだった時代が
あったことは周知のとおり。女の子が生
まれたら桐の木を植える習慣も根付いて
いましたから、その木から下駄を作る職

人もまた多くいたそうです。

もちろんそうした職人はもういません
し、鼻緒を挿げ替えてくれる店もなくなり
ました。草履や下駄を履く姿を見る機会
も以前ほどではありません。それだけに
瀬塚さんの店は「天然記念物のような存
在。大阪ぞうり協同組合が認定する道内
ただ一人の鼻緒挿げ技能士という資格も
輝いて見えます。

鼻緒を挿げる順序は、まず根巻きと
いう作業で麻紐を鼻緒に巻きつけ、左右
三本ずつの紐を踵の裏蓋に出します。
そして両方をしっかりと結んで蓋を閉じま
す。次につま先を入れる前壺にも麻紐を



(左) 最初の根巻きという作業が重要 (写真は下駄の鼻緒)
(中) 根巻きした鼻緒を裏蓋と前壺に通して固定
(右) 左右の強さのバランスを調節



はきものの店 まつや (和装履物問屋 瀬塚商店)
小樽市花園1丁目6-13 TEL TEL0134-23-5523



路面店でこれほどの品揃えは道内に2、3軒

瀬塚 豊さん——はきものの店まつや(小樽市)

「お客さんと歩む三代目 道内ただ一人の 鼻緒挿げ技能士」



通し、こちらも履き心地を加減しなが
ら締めていきます。一足を丁寧に仕上げ
るのに十分から二十分。使う道具は先代
譲りのくじりという錐のようなものだ
けです。その日の最初の一足がうまくい
くと、一日順調ですと瀬塚さん。

何の業界に限らず専門店が廃れ、大量
生産の世の中。草履や下駄も工場でき
て挿げられて流通する時代ですから、
すぐに鼻緒が伸びたり傷んだり。修理も
効かず捨てられることになりました。

しかし、こちらで販売している草履や
下駄は、すべて瀬塚さんの手で台に鼻緒
を挿げていますから、伸びにくいとい
う評判です。札幌の奥さんグループが買

求めて行ったり、観光で来た人がたまた
ま立ち寄ってその後は電話注文でとい
うことも。お店が三代目なら、お客さん
も三代目がいるというのも老舗ならでは
でしょう。

■ ■ ■

貴重な技能の持ち主だけに、道内各地の
呉服や和装小物関係の催事に引っぱりだ
こ。会場で台から挿げ、多くのファンを
獲得しています。

とはいえ、仕事の将来となると話もよど
みがち。息子さんという後継者候補はい
るものの、呉服
などを含めた業
界全体が、いい
ものを作ってい
けるか、本物を
残していけるか
ということに思
いが及ぶからで
す。靴に流行は
あっても草履に

下駄の種類も多い



店舗は国道5号線、JRのガード下

手にするのは、くじりと呼ばれる錐に似た道具のみ。十分から二十分で一足の鼻緒を挿げる

道具で

道草30年

旧き良き時代の生活道具を集めて三十年
全国行脚のなかで出会った人と
思い出の一品にまつわる話の数々――

坂一敬

レトロスペース坂会館・館長（坂茶養食品開発部長）

十 数年前のその日、私は目的に外れてしまい、これと

いったあてもなく函館の街をぶらぶらと歩いていた。

目的は中島三郎助。長崎海軍伝習所で勝麟太郎と同期、後輩に五稜郭の総裁となる榎本釜次郎がいた。箱館戦争では土方が戦死し、榎本以下が降伏した後も官軍に降らず、守る千代ヶ岱に四十九歳の一生を終えている。

血に染まった彼の遺体の胸元から、一枚の短冊がのぞいていたという。雨に濡れ血の滲んだそれには「ほととぎす 我も血を吐く思いかな」と書かれてあったとか。

ともかく五稜郭にある博物館に行けば、彼に関わるものに会えるかと思いを向けたのだけれど、そこには彼のものどころか箱館戦争に関するものさえなかった。

あてが外れ、もう一つの目的の函館公園に足を向けた。好きな啄木の「函館の青柳町こそかなしけれ 友の恋歌矢車の花」の歌碑があるはずである。しかし、こちら

も見つけることはできなかった。人に尋ねる気にもなれず知らない町を歩いていると、「お時間がお

青柳町の無名の壺。



「さか」の文字のあたりに滲むのは、中島三郎助の無念の涙か
函館で出会った焼き物師の、無名時代の作は宝物

ありなら、お立ち寄り下さい」という手書きの小さな看板の出ている古びた家が目に入った。ドアを開けてみると、中には私よりかなり年配の男の人がいて、皿や湯のみ、壺などを、きれいとはいえないテーブルの上に並べていた。

「まあ、お座りなさい」と言うので椅子に腰かけ、どうして寄る気になつたかを言うと「函館には榎本町も土方町もないけれど、中島町はある。碑のところですかさやかなお祭りもあるが、その日は中島

さんが守った千代ヶ岱陥落の日だよ。啄木の歌碑は、公園のスリバチ山の途中の左側に立っている」と言う。

出してくれたお茶を飲みながら、私は礼儀としてまず自分のことを話した。それに応えて彼も「私も

昔は社長と言われたこともあったのだけれど、事業に失敗して家族を連れて夜逃げ。温泉旅館で住み込みの男衆をやっていた。それでも一人娘が年頃になつてくると、やつぱり教育上はよくないと思つて、函館に戻つてきてガードマン

生活。はじめは一日十八時間勤務。今は少し時間を見つけては、湯のみや皿を焼いていると語り始めた。彼は啄木の研究家でもあったので話は尽きず、そこを辞したのはすつかり暗くなつてからだった。

札幌に戻り、しばらくして私のところに少し大きめの荷物が届いた。まったく心当たりがなかった

のでそのままにしておいたが、ある日開けてみると、クッションの中から出てきたのは一個の壺だった。全体は灰白色だが、赤い色の

出ている個所があり、例の血の滲んだ短冊のイメージを彷彿とさせる見事な出来であった。しげしげと見ていると、字が焼きこまれていることに気付いた。正面に「さか」、裏に「頑張れ」とあった。

数年してまた、壺が送られてきた。焼き物でどうにか食えるようになったとあった。さらに数年。函館駅に着いてタクシーに彼の工房の名を言うだけで運んでくれるようになり、街のギャラリーのウインドウには作品が飾られるようになっていた。

ある時、彼に聞いてみた。作品の値段に高いものも安いものもあるけれど、その差はどこからくるのかと。彼曰く、そんなものはその時の気持ち次第。焼き物を買うのに値段で決めるのは愚かだ。自分が気に入るか否かだけが基準だ。

そして私は一生、安いものを焼き続けた。でもなあ、たまにはうまい鮎を食いたいじゃない。

北海道で唯一人、焼き物で食べる男。プロ。そして私に宝をくれた彼。今年もまた、函館まで行かないや。鮎を食いながら啄木を語り、青柳町まで。

本づくり相談室

Q 問い合わせするとき
どんな点に注意したら

どうしても自分の本をつくりたいと思っています。費用がいちばんの問題ですが、見積りも含めて、どんな点に注意して問い合わせればよいのでしょうか。

A 印刷費、編集費、製作日数を聞いておく

どんな本にするかにもよりますが、おおまかには印刷費、編集費、それに製作日数（工程）



についてでしょう。まず印刷費ですが、すでに原稿が出来上がっている場合はそ

の枚数と、希望の判型（A5、B6など）からおおよそのページ数がわかります。写真や図版、追加原稿があればそのこともお知らせください。

体裁でもう一つはつきりしておきたいのは、上製本か並製本かということ。前者は布クロスなどのハードカバー、後者は背を糊付けした上製より薄い表紙です。

次に編集費。本欄でも過去に述べているとおり、よほど書きなれている人でない限り、原稿の添削、全体の構成、使用資料

等のアドバイスは必要と考えられます。

そして、いつまでにつくるか、つまり納品日です。誕生日とか、何かの行事に合わせてとかいう場合は、それに合わせたスケジュールを立てなければなりません。

いずれの項目も、あくまでも目安ですが、知っておかなければ安易に進めません。一度お問い合せを。



何かに追い立てられるように過ぎていく毎日。いつもそこにある時計に、足を止めることを忘れていませんか。



カリヨンの響き。

そぞろ歩きにしろ仕事にしろ、街を歩いているときになじみのあるメロディーで時報が聞こえてきたら気持ちも和むものです。カリヨン——異なる音色の鐘を数個から数十個組み合わせる様々な曲を奏でる仕掛けのことで、ヨーロッパでは三百年の歴史があるとか。日本でも公園や広場などに、意匠を凝らしたシンボルやモニュメントが増えています。ここはビルの谷間にふさわしく時刻と気温、天気のリジタル表示を組み合わせて、装飾的要素はあまりありません。信号を待つ間、きょうは寒いなあと温度に目をやったときに、カリヨンの響きが聞けたらラッキー？



編集室

魚網の網端も桐で

本号、鼻緒挿げ技能士の瀬塚さんを訪ねたときに聞いた桐の話。
桐の一番の特徴は軽くて柔らかく、加工しやすいこと。加えてとても低い吸湿・吸水性。家具や建具、下駄などに使われる理由です。気候温暖なところには良い木が育たず、会津（福島）や南部（岩手）が主産地。小樽でもかつては職人たちの間で、今年はおそこのお宅の桐を切った、来年はあそこだろうなどという会話が交わされていたそうです。

小樽らしい桐の使い方も一つ。それは魚網の網端（あば）です。軽くて水を吸いにくいので、ガラスの浮き玉と同じ働きをしたのです。そのガラスはいま小樽の観光の目玉となっています。

小樽職人の心意気

続いてもいかにも小樽らしい話。職人の技術を後世に伝えていこうと、十年以上も前に発足した小樽職人の会のことです。メンバーは花火師や畳職人、利き酒師など六十人ほど。全国各地の職人の集まりとの交流、地元若人の指導や体験学習などを行っています。三年前には、同会が中心となって世界職人学会を開催。貴重な技術が消えていくことなく、IT社会との融合も遠いことではないでしょう。

中央図書館が使いやすく

札幌市の中央図書館と地区図書館が四月から、月曜〜金曜の夜間が開



館となりました。政令指定都市の中ではトップクラスの図書貸出登録者数なのに、休館日が多く、一回の貸出数も四冊までと少ないため、改善を求める声が上がっていたもの。とくに休館日が月二回と大幅に減ったことは朗報です。

自分史を書くにあたって古いことを調べるのに、本にかなうものはありません。納得いくまで調べて、正確な記述を心掛けましょう。

●自分史セミナーの「出前」します

印刷紙工では毎年、定期的に本づくり講座を開いていますが、都合で来られなかったり、お仲間だけで話を聞きたいという人のために、本づくりセミナーの出前を行っています。三人以上のお集まりで、会場をご用意いただければ、日時を相談の上、編集者と印刷担当者がお伺いして、いろいろとアドバイスをさせていただきます。

●記念誌づくりもお手伝い 企業や団体の節目の設立周年（二十周年、三十周年…）にちなんだ記念誌づくりもお手伝いいたします。企画から承ります。

●小紙をお送りします 小紙をご希望の方には、定期的に無料でお送りしております。印刷紙工までお申し込みを。